

二国間交流事業 共同研究報告書

令和4年4月25日

独立行政法人日本学術振興会理事長 殿

[日本側代表者所属機関・部局]
国立大学法人東京大学・大学院医学系研究科
[職・氏名]
教授・真田 弘美
[課題番号]
JPJSBP 120198101

1. 事業名 相手国: インドネシア (振興会対応機関: DGHE) との共同研究

2. 研究課題名

(和文) インドネシアにおける糖尿病足看護外来の導入と糖尿病足潰瘍予防に対する効果検証(英文) The Introduction of Diabetic Foot Care Nursing in Indonesia and a Verification of Its Effects on Diabetic Foot Ulcer Prevention3. 共同研究実施期間 平成31年4月1日 ~ 令和4年3月31日 (3年0ヶ月)

4. 相手国側代表者(所属機関名・職名・氏名【全て英文】)

The Nursing Institute of Muhammadiyah Pontianak・Chairman・Suriadi

5. 委託費総額(返還額を除く)

本事業により執行した委託費総額		7,087,501 円
内訳	1年度目執行経費	2,337,500 円
	2年度目執行経費	2,375,001 円
	3年度目執行経費	2,375,000 円

6. 共同研究実施期間を通じた参加者数(代表者を含む)

日本側参加者等	5名
相手国側参加者等	2名

* 参加者リスト(様式 B1(1))に表示される合計数を転記してください(途中で不参加となった方も含め、全ての期間で参加した通算の参加者数となります)。

7. 派遣・受入実績

	派遣		受入
	相手国	第三国	
1年度目	3	0	1(1)
2年度目	0	0	0(0)
3年度目	0	0	0(0)

* 派遣・受入実績(様式 B1(3))に表示される合計数を転記してください。

派遣: 委託費を使用した日本側参加者等の相手国及び相手国以外への渡航実績(延べ人数)。

受入: 相手国側参加者等の来日実績(延べ人数)。カッコ内は委託費で滞在費等を負担した内数。

8. 研究交流の概要・成果等

(1)研究交流概要(全期間を通じた研究交流の目的・実施状況)

本研究の特色は、日本の医療モデルをベースにしなが、現地の看護師を育成し、現地のニーズに合った糖尿病足外来を設立し、糖尿病足潰瘍の予防効果を研究的に評価することにある。そこで、現地のニーズに合った糖尿病足看護外来を開設するために、日本の研究者が現地へ渡航し、インドネシアの医療の実情を理解すること、インドネシアの研究者が来日し、日本の糖尿病足外来を視察する機会が必要であった。

2019年8月に日本の研究者3名がインドネシアに渡航し、調査施設を視察し、研究計画を共有した。2019年9月にインドネシアの研究者1名が来日し、糖尿病足外来を視察した。それを踏まえ、両国の研究者で糖尿病足外来のprotocolsの実施に必要な知識と技術の研修を実施し、インドネシアの看護師2名が修了した。12月にインドネシアの2施設で糖尿病足外来を開設し、調査を開始した。その後、日本の研究者がインドネシアに渡航し、開設した外来を訪問して運営の継続に必要な技術的支援を予定していたが、新型コロナウイルス感染症パンデミックの影響で叶わず、オンラインで進捗の確認を行い、サポートした。

(2)学術的価値(本研究交流により得られた新たな知見や概念の展開等、学術的成果)

今回は、糖尿病足潰瘍の既往のある糖尿病患者120名を対象とし、糖尿病足外来protocolsを介入としたランダム化比較試験を実施した。protocolsを導入した介入群60名の糖尿病足潰瘍発生までの平均生存日数 352.9 ± 19.3 日は、従来のケアを受けた対照群60名の 262.0 ± 21.2 日に比べて有意に長く(Log Rank test $X^2=7.686$ $p=0.006$)、本protocolsの有効性が示された。足外来protocolsの導入により糖尿病足潰瘍の予防効果が示されたことは、創傷看護学の見地から学術的価値は高いといえる。

(3)相手国との交流(両国の研究者が協力して学術交流することによって得られた成果)

新たな共同研究の開始およびインドネシアから日本の大学への留学希望者の紹介に至った。

(4)社会的貢献(社会の基盤となる文化の継承と発展、社会生活の質の改善、現代的諸問題の克服と解決に資する等の社会的貢献はどのようにあったか)

糖尿病患者数が増加し、合併症である糖尿病足潰瘍患者数の増加が見込まれているインドネシアでは、糖尿病足潰瘍の予防は喫緊の課題である。本研究は、インドネシアで効果的に糖尿病足潰瘍を予防し、糖尿病患者の生活の質を改善するエビデンスを提唱する一助となる。

(5)若手研究者養成への貢献(若手研究者養成への取組、成果)

日本側の参加者に、大学院生も加わり、当研究を遂行してきた。現地のニーズに適した糖尿病足外来の開設、看護師養成、介入研究を経験することで、より質の高い研究を遂行できる能力およびグローバルに活躍できる能力をつける機会となった。

(6)将来発展可能性(本事業を実施したことにより、今後どのような発展の可能性が認められるか)

今回は糖尿病足潰瘍の既往のある120名を対象者としたが、今後は対象者を全糖尿病患者として本protocolsの有効性を検証する予定であり、国際共同研究加速基金の獲得に至った。

(7)その他(上記(2)~(6)以外に得られた成果があれば記載してください)

例: 大学間協定の締結、他事業への展開、受賞など

なし